

厚生常任委員会 行政視察報告書

厚生常任委員会では、川崎市と長野市を行政視察しました。
概要は以下のとおりです。

(実施期間) 令和6年5月13日～15日

(視察都市) 川崎市、長野市

(視察内容) 川崎市

- ・かわさき健幸福寿プロジェクトについて
長野市
- ・子どもの体験・学び応援事業
（「みらいハッ！ケン」プロジェクト）について

〔川崎市〕

川崎市では、かわさき健幸福寿プロジェクトについて、要介護度等改善・維持評価事業の説明を受けた。

川崎市の人口は154万人であり、そのうち高齢者（65歳以上）の人口は33万人、およそ5人に1人の割合である。高齢化率としては約21%であり、政令市の中でも若い方から数えて1、2番目の位置している。しかし、高齢化率は今後、一気に進むと推計されている。

今回視察した、要介護度等改善・維持評価事業とは、任意の期間に対象者の要介護度が改善または維持できた場合、その対象者のケアに携わった介護保険事業所（在宅ケア含む）にインセンティブとして報奨金を付与するというものである。これは自立支援の意識を高めてもらうために、毎日の介護サービスを提供する事業所にもスキルを上げてもらい、質の高いケアをしてもらいたい、市としてそれを評価したいという思いから平成26年度に開始したものである。

委員からは、将来的に国の事業としてやるように声を上げないのか、取組期間は1年だが、追跡調査などはしているのか等の質問が出された。



(川崎市での視察風景)

〔長野市〕

長野市では、子どもの体験・学び応援事業について説明を受けた。

1998年の長野オリンピックで、子供たちが、大会の観戦や選手との交流を通じて、多くのことを学び、それが子供の成長や、生き方・考え方にもプラスの影響を生んできたと実感したことから、こうした子供の成長につながる体験や学びの機会を提供し、市全体で子供たちのチャレンジを応援するため、長野市では、令和5年度に子どもの体験・学び応援モデル事業を実施した。対象者は長野市に居住している小学校1年生から中学校3年生までの子供の養育者であり、対象者一人一人に体験や学習で利用できる電子ポイントが配布され、運営事務局が用意する専用ポイントサイトから、希望する体験プログラムや教育サービスを選び、ポイントを利用して申し込むことで、サービスの提供を受けることができるというものである。運営事務局は長野市だが、事業運営自体は、委託先である公益社団法人チャンス・フォー・チルドレンが担っている。初めての試みであることから、利用者へのサポート体制として、経済的・社会的状況に影響されることなく体験・学びにアクセスできる環境の構築、また、子供のニーズに即した最適なプログラムとのマッチングのために地域コーディネーターを設置した。

令和6年度からは、モデル事業で整った環境をもとに、本格的に子どもの体験・学び応援事業として継続することとした。

委員からは、専用ポイントサイトのシステム構築はどのようにされたのか、体験プログラムを提供する参画パートナーの協力要請はどのような要件を定めたのか、地域的な利用差や特徴があるか等の質問が出された。



(長野市での視察風景)